

原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：

202X”標準改定に関する標準委員会中間報告での意見とその対応について

標準委員会 リスク専門部会 外的事象 PRA 分科会 断層変位 PRA 作業会

第27回断層変位 PRA 作業会 議事録

1. 日 時：2025 年 9 月 19 日（水）9:30-11:30

2. 場 所：電中研大手町 708 会議室/Online 併用（Webex）

3. 出席者（敬称略）：

【出席委員】糸井主査、蛭沢副主査、神谷幹事、酒井幹事、青柳委員、足立委員、奥村委員、木村委員、高尾委員、原口委員、三輪委員、中村委員、羽場委員、樋口委員、渡邊委員

【常時参加者】後藤、西坂、高林、山田、稲垣、ゴク、両角

【欠席委員等】二階堂委員、藤岡委員、牟田委員、東常時参加者、窪田常時参加者、熊谷常時参加者、森常時参加者

【オブザーバ】根岸氏（地震 PRA 作業会幹事）

4. 配布資料：

RK6WG5-27-0 議事次第

RK6WG5-27-1 前回議事録案

RK6WG5-27-2 標準委員会中間報告意見とその対応

RK6WG5-27-3 本文/附属書改定版

RK6WG5-27-4 解説他改定版

RK6WG5-27-5 断層変位PRA 実施基準（本報告）

RK6WG5-27-6 保全セミナー案内

5. 議事概要及び決定事項等

(1) 定足数の確認と主査挨拶

議事に先立ち委員 18 名に対して、出席者 15 名で定足数（2/3 以上）を満たしている旨確認した後、糸井主査から挨拶があった。

(2) 前回の議事録確認

酒井幹事から前回の議事録について主な内容について紹介があり、内容が承認された。

(3) 標準委員会中間報告意見とその対応について

資料 RK6WG5-27-2 に基づき、各委員より標準委員会中間報告意見についての対応について説明があった。

中島委員の意見の回答については、従属とは何か相関とは何かを定義したうえで、PRA で従属ではなく相関であると言った方がいいとのコメントがあり、対応方針の記載内容は、主査・副主査・幹事一任となった。

(4) 本文／附属書改定版について

資料 RK6WG5-27-3 に基づき、各担当の委員から、変更箇所について説明があった。

道路の損傷については、分科会以降の議論において、その必要性がある場合には、地震 PRA で挙げている評価例を参考に記載すればよいのではないか、とのコメントがあった。

屋外重要土木構造物のフラジリティ評価については、土木学会から刊行されている屋外重要土木構造物の指針・マニュアルの最新版の引用にすべきとのコメントがあった。

(5) 解説他改定版について

資料 RK6WG5-27-4 に基づき神谷幹事から、変更箇所について説明があった。

参考文献の書き方として、「IAEA」等の略称ではなくフルの正式名称とすること、著者の英文名は、姓・名の順（例：Fukushima,Y.）で記載することとした。

目次は、新旧で対応しないものについてはあえて対比して記載せず、削除してもよいのではないかとコメントがあった。

(6) 断層変位PRA 実施基準（本報告）について

資料RK6WG5-27-5に基づき酒井幹事から、外的事象PRA分科会、リスク専門部会用本報告資料（PPT）の説明があった。

使用フォーマットについて、リスク専門部会決定のものが更新されており、転載許諾の状況、用語辞典への掲載項目などの記載項目が追加になっているので、最新フォーマットで記載することとなった。

「概要」の記載のSSHACガイドラインの採用に関しては、地震PRAが採用しているから、ということではなく、SSHACガイドラインによる評価や伊方SSHACプロジェクトの実績自体が重要であるため、SSHACガイドラインに基づくとした、との趣旨で修正するとともに、同内容を含む改定の概要は解説の記載内容と整合をとるよう修正することとなった。

(7) その他

外的事象分科会とリスク専門部会への最終報告に向けて、各担当の委員は、完本版及び比較表のワードファイルを、10月20日までに神谷幹事まで提出することとした。

誤記チェックについて、10月下旬～11月下旬の期間で実施することし、作業会3役は全般を横断的に、各委員/常時参加者は個々の専門分野を担当箇所としてチェックすることとなった。チェックに際しては改めて酒井幹事から担当箇所の割り振りなどの連絡を行うこととした。

転載許諾については、標準委員会の方針として公衆審査前に転載許諾を終わらせる必要があることが確認され、また、地震 PRA 改定の際の実績から事務局が担当するのは 30 件程度であり、それを超える部分は作業会委員で分担して転載許諾を取得する必要があるとの情報があり、当面各箇条での要転載許諾箇所のリスト化を進めることとなった。

次回の作業会については、2026.1.21（水）午前に実施することとなった。

資料 RK6WG5-27-6 に基づき、保全学会主催の保全セミナーに関して、開催の経緯や概要などについて紹介があった。

以上